

原発からの撤退を求める署名

衆議院議長 殿
参議院議長 殿

【請願主旨】

福島第一原子力発電所の事故は、原発の危険性を国民の前に事実をもって明らかにしました。

現在の原発の技術は本質的に未完成で、きわめて危険なものです。原発はばく大な放射性物質（死の灰）をかかえています、それをどんな事態がおきても閉じ込めておく完全な技術は存在しません。そして、ひとたび大量の放射性物質が放出されれば、被害は深刻かつ広範囲で、将来にわたっても影響を及ぼします。

そうした原発を、世界有数の地震・津波国であるわが国に、集中的に建設することは危険きわまりないことです。日本に立地している原発で、大地震・津波にみまわれる可能性がないと断言できるものは一つもありません。

歴代政府が、「安全神話」にしがみつき、繰り返しの警告を無視して安全対策をとらなかったことが、どんなに深刻な結果をもたらすかも明瞭となりました。

以上をふまえて、私たちは、原発からの撤退を要求します。

【請願項目】

一、日本政府が原発からの撤退を決断し、原発をゼロにする期限を決めたプログラムをつくることを求めます。

氏名	住所

【取り扱い団体】

署名にご協力下さい

【お願い】お手数ですが、この署名はお近くの日本共産党事務所やお知り合いの日本共産党員にお届けいただくか、日本共産党国会議員団近畿ブロック事務所へファクス（06-6764-9115）いただければ幸いです。

被災者の生活・生業の再建こそ

東日本大震災10ヵ月

東日本大震災から10ヵ月。被災者33万人以上が新年を避難先で迎えました。復興への課題は山積しています。日本共産党は、大震災を決して「風化」させず、復興を持続的な国民的課題とし、「被災者の生活と生業（なりわい）が再建できて初めて復興」という立場でがんばります。

恐ろしさを事実で示しました。日本共産党は、政府が原発ゼロを決断し、原発撤退の期限を決めたプログラムをつくることを求めます。自然エネルギーは、「脱原発」を決断してこそ普及します。今年を原発ゼロへの大きな前進の年にしましょう。

●原発の恐ろしさ事実で

福島原発事故は、原発事故の

日本共産党

原発ゼロへ大きな前進の年に

衆院比例近畿ブロック予定候補

参院比例予定候補



こくた 恵二
党国対委員長



宮本 岳志
衆院議員 1期



清水 忠史
党大阪府副委員長



堀内 照文
党兵庫副委員長



井上 哲士
参院議員 2期
(京都、東海、北陸信越)



山下 芳生
参院議員 2期
(京都以外の近畿)

近畿民報

発行 / 日本共産党国会議員団
近畿ブロック事務所
2012年1月号外

〒540-0004 大阪市中央区玉造2丁目15番7号USビル2F
Tel.06(6764)9111 Fax.06(6764)9115
Eメール:jcpkinki@cronos.ocn.ne.jp

※日本共産党は
以上の見解を
発表しました。